

若者の県内定着に向けたワーキング部会の設置について

平成 30 年 4 月 26 日
戦略企画部企画課

1. 趣旨

本県では、人口減少の課題に的確に対応するため、平成 27 年に「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部」を設置して、自然減対策および社会減対策それぞれに目標を掲げ、車の両輪として施策を総動員し、取り組んでいるところです。

自然減対策については、本県の合計特殊出生率は平成 27 年、28 年の直近 2 年連続で 1.5 台を維持しており、平成 16 年の 1.34 を底に回復傾向にあります。

しかしながら、社会減対策については、人口の県外への流出抑制と県内への流入促進を図ってきたところですが、依然として転出超過の改善が進まず、平成 29 年の転出超過数は 3 年続けて 3,500 人を超え 4,063 人となり、厳しい状況となっています。特に、進学や就職に伴う 15～29 歳の若者の転出超過は全体の約 8 割を占めるなど、転出超過の大きな要因の 1 つとなっています。

このため、若者の県内定着に向けて危機感を持って各部局が連携し、取り組んでいくことが急務と考え、「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部」の幹事会にワーキング部会として「若者県内定着緊急対策会議」を設置し、若者県内定着に向けた取組を加速することとします。

2. 会議の目的

会議においては、連携方法などより効果的な取組方法について議論した上で、各部局において今年度の取組から適宜見直しを図りながら、来年度以降の新たな取組と合わせ対策を加速していきます。

(1) **つかむ** 若者の意識やニーズをつかむ

・各部局が実施した若者の意識調査に加え、若手職員からの意見聴取等から若者の意識やニーズをつかんでいく。

(2) **みなおす** 連携方法など進め方を見直す

・着実に進めるべきものについても、関係部局との連携方法など、より効果が上がるよう今年度取組の進め方を見直す。

(3) **つくる** 新たに必要な取組を創る

・既存の取組では課題解決が図られない場合は来年度以降に向けた新たな取組の実施について検討する。

3. 当面のスケジュール

- ・ 4～5月 若者の意識やニーズのデータ収集・分析
- ・ 5月 第1回「若者県内定着緊急対策会議」の開催
- ・ 5～6月 今年度取組の進め方の適宜見直し
- ・ 6月 三重県地方創生会議検証部会に資料を提示
三重県地方創生会議で議論
- ・ 7～9月 三重県総合教育会議で議論
若者県内定着に向けた方向性の再確認と積み残した課題への取組を検討
- ・ 10月 来年度取組案など以降の方向を提示

※以降も必要に応じて開催。情報共有も継続

4. メンバー

「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」基本的な取組方向「5 若者の雇用対策」「13 若者の県内定着の促進」に提示されている取組を実施する所属（事業課）を軸に班長クラスの職員、十数名程度で構成。